

申請人6人の①個人行動記録②被ばく毒物濃度③健康被害症状④申請人と同種被害発症事例・4点セット

山田國廣著

申請人6人の

- ①原発事故直後の行動記録
- ②被ばくしたプルーム別ピーク時の放射能濃度(Bq/m³)と安定テルルの質量濃度(g/m³)
- ③急性原爆症と慢性原爆症の症状
- ④申請人と同種被害発症事例



①渡辺瑞也さんの原発事故直後の行動記録

②渡辺瑞也さんの被ばくしたプルーム別ピーク時の放射能濃度(Bq/m³)と安定テルルの質量濃度(g/m³)

2011年3月11日から31日の申立人・渡辺瑞也の行動記録

- 2011年3月11日～14日時点の居住場所：小高赤坂病院（南相馬市小高区片草字秩父山24番地）

渡辺瑞也の2011年3月末までの行動軌跡

- ① 小高赤坂病院（南相馬市小高区片草字秩父山24番地）に滞在
- ② いわき光洋高校へ移動
- ③ 南会津田島高齢者センターに滞在
- ④ 東京都立松沢病院（東京都世田谷区上北沢2-1-1）に向けT那須経由でバス移動
- ⑤ 東京都立松沢病院に滞在
- ⑥ 長男宅（神奈川県川崎市麻生区白鳥）に滞在
- ⑦ 福島市へバスで移動
- ⑧ 福島市に滞在
- ⑨ 福島市から南相馬市へタクシーで移動
- ⑩ 官舎（ブッシュクローバー）、南相馬市原町区旭町4丁目に宿泊
- ⑪ 仙台市泉区高森4丁目の自宅へ自家用車で移動
- ⑫ 仙台市泉区高森4丁目の自宅で避難生活



2011年3月の日時	行動記録	被ばくした可能性のあるプルーム番号
11日～14日	南相馬市の①小高赤坂病院に滞在	P1 v, P1
14日～15日5時まで	小高赤坂病院からいわき市中央台高久の②いわき光洋高校へ移動	
15日5時～12時		
15日15時～18日7時	③南会津田島高齢者センターに滞在	P3
18日7時～12時	④東京都立松沢病院（東京都世田谷区上北沢2-1-1）に向けT那須経由でバス移動	
18日12時～18時	④東京都立松沢病院に滞在	
18日20時～23日	⑤長男宅（神奈川県川崎市麻生区白鳥）に滞在	P2
23日7時～12時	福島市へバスで移動	
23日12時～17時	福島市に滞在	
23日17時～19時	福島市から南相馬市へタクシーで移動	
23日19時～24日9時	⑩官舎（ブッシュクローバー）、南相馬市原町区旭町4丁目に宿泊	
23日9時～18時	⑪仙台市泉区高森4丁目の自宅へ自家用車で移動	
24日～3月末	⑫仙台市泉区高森4丁目の自宅で避難生活	

2024/2/25

山田國廣著「テルル読本No16: 申請人6人がひばくした9本のプルーム番号を特定しプルーム中微粒子に含まれていた放射性テルル、ヨウ素、セシウムの大気汚染濃度と安定テルルの質量濃度を算定する」

1号機放出プルーム中のタイプBのCaボールと呼ばれる微小粒子（形状がいびつで直径が数十μmと大きい）



プルーム2（P2）～プルーム9（P9）には以下に示すAタイプCaボール（直径は1～2μm）を形成していた。



申立人：南相馬市小高区・渡辺瑞也さんの被ばくプルーム番号とプルーム中の放射性核種別濃度（Bq/m³）と安定テルル（Te-128, Te-130）の質量濃度（g/m³）の算定表
 算定用データ出典1：プルーム別のCs-137濃度はSPM(微小粒子)捕集用ろ紙に付着した放射性核種データから引用
 算定用データ出典2：プルーム別のCs-137比はCTBT高崎観測所の実測値より引用
 算定用データ出典3：Te-128, Te-130とCs-137の質量比はJAEAのData/Code2012-018「福島第一原子力発電所の燃料組成解析」より引用

県名	SPM測定局	測定場所	被ばくプルーム番号	プルーム中の大気汚染濃度（Bq/m ³ ）										質量濃度（g/m ³ ）	
				Te-129	Te-129m	Te-131m	Te-132	I-131	I-132	I-133	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Te-128	Te-130
群馬県	CTBT高崎観測局Cs137比		3月12日～13日P1	0.53	1.47	1.2	10.9	3.74	7.31	8.9	0.86	0.22	1		
			3月15日P3	0.38	4	0.5	4.8	2.6	1.98	1.8	1.23	0.15	1	Cs-137質量比	Cs-137質量比
			3月18日のP5	0.52	0.95	0	3.46	3.6	2.05	0.86	0.16	1	0.078	0.305	
			3月20日P8	0.31	5.29	0	1.2	1.37	0.61	0	0.86	0.14	1		
福島県	原町局	南相馬市原町	3月12日12時のP11	5	13	11	98	34	66	80	8	2	9.0	2.18E-13	8.51E-13
			3月12日20時のP12	345	956	780	7085	2431	4752	5785	559	143	650	1.57E-11	6.15E-11
			3月13日18時のP13	1	1	1	11	4	7	9	1	0.2	1	2.42E-14	9.46E-14
			3月13日22時のP14	0.5	1	1	10	3	7	8	1	0.2	0.9	2.18E-14	8.51E-14

2024/2/25

No16: 申請人6人がひばくした9本のプルーム番号を特定しプルーム中微粒子に含まれていた放射性テルル、ヨウ素、セシウムの大気汚染濃度と安定テルルの質量濃度を算定する

15

③渡辺瑞也さんの急性原爆症と慢性原爆症の症状

④渡辺瑞也さんと同種被害発症事例

申請人・渡辺瑞也さんの急性原爆症状と慢性原爆症状

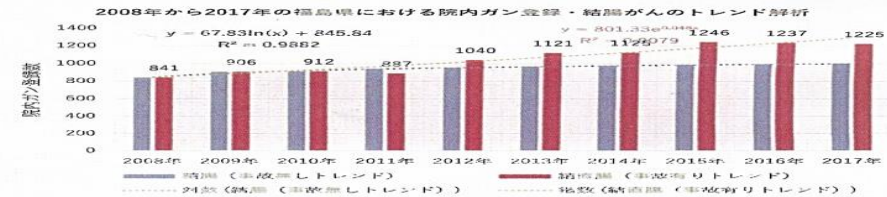
- ①申立人の性別と氏名：渡辺瑞也、男性
- ②被ばく時の住所：小高赤坂病院（南相馬市小高区片草字秩父山24番地）
- ③現在の住所：宮城県仙台市
- ④申立人の活動歴：南相馬市小高病院の医師

急性、慢性の分類	健康被害症状及び病名	左記症状の原発事故原因発症事例
急性原爆症状	①福島第一原発事故の炉心溶融が始まった2011年3月11日から3日間、 原発から歩北西18kmの職場（小高病院）に留まって被ばくした。 ②事故後、2012年頃から順次、歯の痛みとグラつきが出て5本の抜歯を 余儀なくされました。	①広島原爆における急性原爆症、そしてトモダチ作戦参加空母ロナルド・レーガン乗組員のリンゼー・クーパーさんの被爆直後・急性原爆症証書によると「歯の痛みとグラつきは急性原爆症の一部症状」であった。
慢性原爆症状	①2014年には不整脈が出没。 ②2015年3月には転倒して腰椎圧迫骨折。 ③2015年12月にはデノボ型結腸がんが判明、手術+抗がん剤投与による治療を受ける。 ④わたしの伴侶は2016年から高度不整脈が現れて心臓ペースメーカーを植え込み、以来徐々に心臓病が悪化して現在は心不全状態になってしまいました。 ⑤私の職場や同僚やその家族の中には、肺がん、乳がん、膀胱がん、前立腺がん、甲状腺がん、などを発症した方々がおられます。	①福島県のDPC登録24病院における原発事故後に急増した慢性原爆症には「2010年の治療数に比べて2012年にはの不整脈は1.3倍、心不全は高倍率で増加していた」 ②2008年から2017年の福島県における「院内ガン登録・結腸がんのトレンド解析結果では原発事故要因による結腸がんの増加が明確であった」 ③2008年から2017年の福島県における院内ガン登録トレンド解析ではガンが原発事故原因では乳がん、前立腺がん、膀胱がん甲状腺がんの増加が確認できる」

2008年から2017年の福島県における「院内ガン登録・結腸がんのトレンド解析結果」

- ①原発事故原因で2017年までに増加した結腸がん登録者の合計人数-1057人
- ②原発事故発ガン寄与率のトレンドは指数関数（急増型）であり2012年には8.2%、2017年には18.2%にまで増加し、この傾向は今後とも持続すると推定される。

経過年	調査年	結腸（事故無しトレンド）	結直腸（事故有りトレンド）	ガン過剰数	原発事故発ガン寄与率（%）
	1 2008年	841	841		
	2 2009年	906	906		
	3 2010年	912	912		
	4 2011年	940	887	-53	-6.0
	5 2012年	955	1040	85	8.2
	6 2013年	967	1121	154	13.7
	7 2014年	978	1125	147	13.1
	8 2015年	987	1246	259	20.8
	9 2016年	995	1237	242	19.6
	10 2017年	1002	1225	223	18.2
	合計(2011年~2017年)	6824	7881	1057	13.4



①安齋徹さんの原発事故直後の行動記録

②安齋徹さんの被ばくしたプルーム別ピーク時の放射能濃度(Bq/m³)と安定テルルの質量濃度 (g/m³)

2011年3月11日から31日の申立人・安齋徹の行動記録

・ 2011年3月15日の居住場所：福島県相馬郡飯館村小宮



2011年3月中の日時	行動記録	被ばくした可能性のあるプルーム番号
11日	飯館村小宮の山（木を伐採する仕事をしていた）にて地震に遭遇	
12日	1号機の建屋爆発をテレビで見ていた	
14日	3号機の建屋爆発は音が聞こえた	
15日夕方	飯館村小宮の自宅にて、朝から雨が夕方には雪にかわった。黒いものが降ってきた。金属の匂い、赤さび色の霧を見て、肌がヒリヒリする	P 3
15日夕方～	食べものを買いにスーパーへ行きその後、風呂に入る時も肌のヒリヒリ感があった。その後テレビを見てるとヒリヒリ感があった。	P 3
16日～	飯館村小宮の自宅は標高の高いところにあり、15日以降も谷間に霧が濃い、何日も続いた。	P 8
23日	知り合いの家に行き車を止めると霧の中で皮膚がヒリヒリして、腹が下った	
3月29日か～5月未定	津波で被災した相馬市の遺体探しに通うが、飯館村に戻ると腹が下る	

2024/2/2 プルーム2 (P2)～プルーム9 (P9) には以下に示すAタイプCsポル（直径は1-2μm）を形成していた。



申立人：飯館村・安齋徹さんの被ばくプルーム番号とプルーム中の放射性核種別濃度 (Bq/m³) と安定テルル (Te-128, Te-130) の質量濃度 (g/m³) の算定表

算定用データ出典 1：プルーム別のCs-137濃度はWSPEEDIより引用

算定用データ出典 2：プルーム別のCs-137比はCTBT高崎観測所の実測値より引用

算定用データ出典 3：Te-128, Te-130とCs-137の質量比はJAEAのData/Code2012-018「福島第一原子力発電所の燃料組成解析」より引用

県名	測定場所	プルーム番号	Te-129	Te-129m	Te-131m	Te-132	I-131	I-132	I-133	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Te-128	Te-130	
群馬県	CTBT高崎観測局Cs-137比	3月12日～13日P1	0.53	1.47	1.2	10.9	3.74	7.31	8.9	0.86	0.22	1			
	CTBT高崎観測局Cs-137比	3月15日P3	0.38	4	0.5	4.8	2.6	1.98	1.8	1.23	0.15	1	Cs-137質量比	Cs-137質量比	
	CTBT高崎観測局Cs-137比	3月18日のP5	0.52	0.95	0	3.46	3.6	2.05	0.86	0.16	1	0.078	0.305		
	CTBT高崎観測局Cs-137比	3月20日P8	0.31	5.29	0	1.2	1.37	0.61	0	0.86	0.14	1			
プルーム中の大気汚染濃度 (Bq/m ³)													質量濃度 (g/m ³)		
県名	測定データ	測定場所	被ばくプルーム番号	Te-129	Te-129m	Te-131m	Te-132	I-131	I-132	I-133	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Te-128	Te-130
福島県	WSPEEDI	福島県飯館村役場	3月12日18時のP1	0.4	4	1	5	3	2	2	1	0.2	1.0	2.42E-14	9.46E-14
	WSPEEDI	福島県飯館村役場	3月15日23時のP3	84	880	110	1056	572	436	396	271	33	220	5.32E-12	2.08E-11
	WSPEEDI	福島県飯館村役場	3月18日20時のP5	1	1	0	3	4	2	0	1	0.2	1	2.42E-14	9.46E-14
	WSPEEDI	福島県飯館村役場	3月20日12時のP8	65	1111	0	252	288	128	0	181	29	210	5.08E-12	1.99E-11

③安齋徹さんの急性原爆症と慢性原爆症の症状

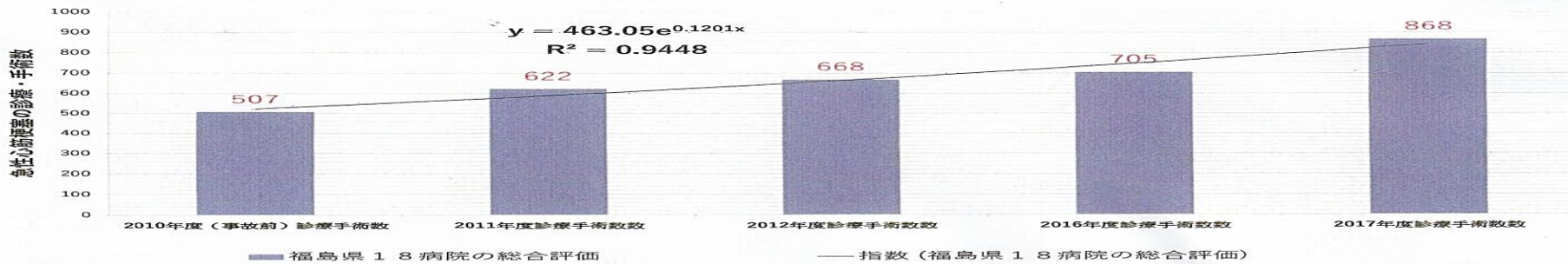
④安齋徹さんと同種被害発症事例

申請人・安齋徹さんの急性原爆症状と慢性原爆症状

- ①申立人の氏名と性別：安齋 徹さん、男性
- ②被ばく時の住所：福島県相馬郡飯館村小宮
- ③現在の住所：福島県伊達市伏黒一本石41-2 仮設住宅B-2-2
- ④申立人の活動歴：「福島の子供たちをいっばい遊ばせたいプロジェクト」副代表。

急性、慢性の分類	健康被害症状及び病名	左記症状の原発事故原因発症事例
急性原爆症状	<p>①3月15日朝は雨が雪になり、黒いものが混じって降って来ました。金属の焼けるような臭いがして、周りの空気が赤錆色に見え、肌がビリビリ痛み始めたので、家に閉じこもっていました。スーパーに行き、戻って風呂に入ると皮膚の表面にビリビリ感があり、風呂から出るとビリビリからビリビリになりました。その間も焼けた金属臭が続いていました。</p> <p>②3月23日に知人のところに出掛け費の中で車から降りると、皮膚にビリビリ感がありました。その頃は、下痢が続く状態になっていました。</p> <p>③伊達市の仮設住宅に移りましたが、顔色も悪く、翌年、病院で胃に赤いポツポツがあり、心臓が肥大し、飲酒しないのに肝臓が悪い、ストレスだと言われ、パトロールをやめました。</p> <p>④2011年12月、札幌のよさこい祭に行き、新潟から船に乗って、夜、船の風呂に入り、頭髪をシャンプーすると髪の毛がパツパツ抜けました。痛みはありませんでした。髪の毛が生えた状態で浴室に行き、禿げて出て来ました。</p>	<p>①安齋徹さんの左記の急性原爆症状（金属のやけどのような臭いや味、肌がビリビリする、下痢が続く、脱毛）は、「広島原爆の急性原爆症状・トモチ作戦参加空母ロナルドレーガン乗組員の急性原爆と類似」していた。</p>
慢性原爆症状	<p>①2013年から子ども保養プロジェクトの副代表になり、2016年年9月、保養先から子どもたちを福島に連れ帰るために祝島に行った時、急に体が熱くなり、右腕が硬直し、右足も動かさにくく、頭がボーッとして、その後、意識がなくなりました。山口市の病院で、脳梗塞と心筋梗塞を起こしていると診断されました。</p> <p>②福島や飯館から山口県に保養に行った子どもたち全員が、支援団体の好意で甲状腺検査と健康診断を受けられます。2014年の検査では何ともなかったのに、翌年嚢胞があるとわかったり、また検査を受けた全員が2年目に「要観察注意」と診断されました。全員の診断書を預かって帰り、中身を見ずに保護者に渡しました。</p> <p>③山へ行くと、自分は両足の脛の皮膚が赤く痒くなりました。ナイフで掻きむしりたくなるほどの痒さです。しばらくすると皮膚表面が硬く乾いて白い皮が剥がれて来る。面積が広がって、今は背中が痒い。風呂に入ると皮膚が剥がれて湯に浮く。これは垢じゃ無い。</p>	<p>①福島県におけるDPC登録病院のMDC分類の全疾患・全病名の診療数における2011年度、2012年度の過剰相対倍率評価では「2010年の治療数に比べて2012年にはの脳梗塞、心筋梗塞とも1.3倍に増加していた」。</p>

福島県のDPC登録18病院における2010年度（原発事故前）から2017年度の「急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の増加傾向」
 注：福島県ではDPC登録18病院において、原発事故前の2010年に心筋梗塞診療数は507件であったものが原発事故後に増加し2017年には868件で事故前件数の1.7倍に増加していた。



①大越良二さんの原発事故直後の行動記録

②大越良二さんの被ばくしたプルーム別ピーク時の放射能濃度(Bq/m³)と安定テルルの質量濃度(g/m³)

2011年2月から3月の申立人・大越良二の行動記録

・ 2011年3月15日の居住場所：福島県福島市庄野字原田3の5：NPO法人ファーム庄野（精神障害者支援事業）



2011年2月～6月	行動記録	被ばくした可能性があるプルーム番号
2011年2月	NPO法人ファーム庄野（精神障害者支援事業）設立	
3月12日	避難者が集まっているあづま総合体育館に知人を探しにいった	
3月15日	ファーム庄野で「NPO設立コンサート」の準備開始	P3
3月15日～	コンサートのチラシを配布するため、福島市内や市外の病院23か所を回る。川俣町、伊達市、二本松市にも行く	P3, P8
3月15日～	コンサートの宣伝のため活動を6日間続ける	P3, P8

プルーム2（P2）～プルーム9（P9）には以下に示すAタイプボール（直径は1-2μm）を形成していた。



山田國廣義「テルル読本No16: 申請人6人がひびくした9本のプルーム番号を特定しプルーム中微粒子に含まれていた放射性テルル、ヨウ素、セシウムの大気汚染濃度と安定テルルの質量濃度を算定する」

申立人：福島市庄野・大越良二さんの被ばくプルーム番号とプルーム中の放射性核種別濃度（Bq/m³）と安定テルル（Te-129, Te-130）の質量濃度（g/m³）の算定表
 算定用データ出典1：プルーム別のCs-137濃度はSPM(微小粒子)捕集用紙に付着した放射性核種データから引用
 算定用データ出典2：プルーム別のCs-137比はCTBT高崎観測所の実測値より引用
 算定用データ出典3：Te-129, Te-130とCs-137の質量比はJAEAのData/Code2012-018「福島第一原子力発電所の燃料組成解析」より引用

県名	測定場所	プルーム番号	Te-129	Te-129m	Te-131m	Te-132	I-131	I-132	I-133	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Te-128	Te-130	
群馬県	CTBT高崎観測局Cs-137比	3月12日～13日P1	0.53	1.47	1.2	10.9	3.74	7.31	8.9	0.86	0.22	1			
	CTBT高崎観測局Cs-137比	3月15日P3	0.38	4	0.5	4.8	2.6	1.98	1.8	1.23	0.15	1	Cs-137質量比	Cs-137質量比	
	CTBT高崎観測局Cs-137比	3月18日P5	0.52	0.95	0	3.46	3.6	2.05	00.86	0.16	1	0.078	0.305		
	CTBT高崎観測局Cs-137比	3月20日P8	0.31	5.29	0	1.2	1.37	0.61	0	0.86	0.14	1			
プルーム中の大気汚染濃度（Bq/m ³ ）													質量濃度（g/m ³ ）		
県名	SPM測定局	測定場所	被ばくプルーム番号	Te-129	Te-129m	Te-131m	Te-132	I-131	I-132	I-133	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Te-128	Te-130
福島県	森合局	福島市森合町	3月15日22時のP3	10	104	13	125	68	51	47	32	4	26.0	6.29E-13	2.46E-12
	森合局	福島市森合町	3月20日15時のP8	12	207	0.0	47	54	24	0	34	5	39.2	9.48E-13	3.71E-12

山田國廣義「テルル読本No16: 申請人6人がひびくした9本のプルーム番号を特定しプルーム中微粒子に含まれていた放射性テルル、ヨウ素、セシウムの大気汚染濃度と安定テルルの質量濃度を算定する」

③大越良二さんの急性原爆症と慢性原爆症の症状
 ④大越良二さんのと同種被害発症事例

申請人・大越良二さんの急性原爆症状と慢性原爆症状

- ①申立人の氏名と性別：大越良二、男性
- ②被ばく時の住所：福島市庄野字原田3の5
- ③現在の住所：福島市庄野字原田3の5
- ④申立人の活動歴：「NPOフォーラム庄野は、障害者とその家族のよりよい生活と福祉に資するため事業を行い、共生の地域作りを目指して、2011年2月に設立された」

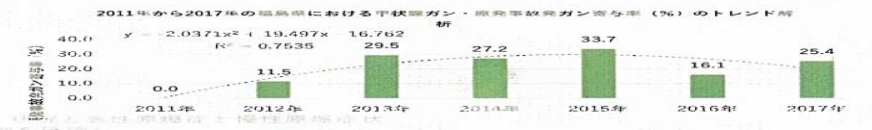
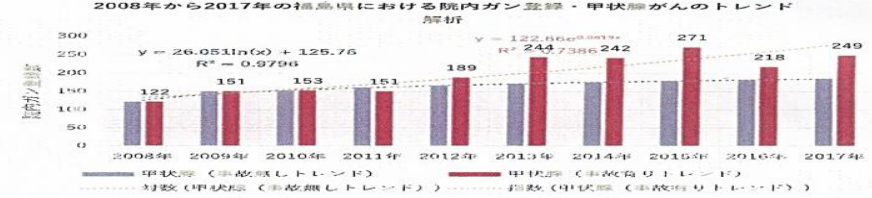
急性・慢性の分類	健康被害症状及び病名	左記症状の原発事故原因発症事例
急性原爆症状	①・2011年4月5日：高血圧（120台から160台へ）急上昇。 ②2011年6月：急性下痢と嘔吐。 ③2011年7月：一週間以上の下血。福島市南東北病院で大腸検査。大腸ガンは発見されなかった。	①広島原爆における急性原爆症状では「下痢、嘔吐、下血などは典型的な急性原爆症であった」
慢性原爆症状	①2013年12月19日：就寝時、二十分ほど胸が締め付けられる痛みが走り、急性心筋梗塞の疑い。南福島循環器病院で血液検査、尿検査、心電図検査、コホート検査を受けた。二十分程度心筋梗塞があったと。 ②2014年1月：通風の発作。通風は年何回か発作が起き、痛み止めを持ち歩く。 ③2014年10月：医師から促され、ふくしま共同診療所の市民検診で甲状腺エコー検査を受け、甲状腺左葉に13mmの結節が見つかる。甲状腺ガンの疑いも発見。経過観察続行中。 ④2014年11月：南東北病院で膵臓のCT検査。膵臓でなく胆管に異常。翌年、郡山市の南東北病院で再受診。「95%大丈夫だろう」とのこと。知人の胆管ガンの経緯を知っていたので、寿命を覚悟。 ⑤2016年12月1日：ガンを含む甲状腺全摘出手術。転移の疑いがあるリンパ節は削り取った。手術は4時間に及び、気管の裏側に貼りついたガン細胞を剥がすのに1時間かかった。目覚めた時「出血が少なかつたね。予定通り摘出しましたよ」と微笑む医師の顔に手術の成功を知ってほっとした。喉には1.5cmの傷痕が残った。 ⑥2011年まで福島に22年間住み続けたが、定期健康診断を受けたことはなく、通風で年1度の医師の診察のみ。風邪も市販薬で済んだ。医大病院の医師は「原発とは関係ない」と言ったが、私の甲状腺腫瘍は1年半の間に進行性ガンに変化した。体調変化は原発事故由来の放射線被ばくの影響と、強く疑っている。 事故後、家族や親族にも健康影響が現れた。2人の娘とその家族7人が福島市内に住んでいた。孫3人は事故直後から全員が鼻血を出した。長女は2012年5月に、次女は6月にそれぞれ脳腫瘍を患った。さらに長女は2014年に7ヶ月の早産。孫は弱視眼で目がよく見えない。2015年に横浜市、2-16年に宇都宮市、2020年に福島市に住む3人の義弟が前立腺ガン手術、2018年1月に福島市に住む義父が大腸ガン手術を受けた。川内村から郡山市に避難した義兄は脳梗塞。姉は白内障になった。 ⑦事故後の庄野地区148世帯で、甲状腺疾患の患者が7人。うち3人が甲状腺ガン手術後、肺転移などで死亡。2016年、54歳の女性か、子宮頸ガンの全身転移で死亡。	①福島県のDPC登録24病院において2010年度（原発事故前）から2017年度の「急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の増加傾向があった」 ②2008年から2017年の福島県における院内ガン登録・甲状腺がんのトレンド解析において「甲状腺がんが原発事故要因で増加していた」 ③福島県におけるDPC登録病院の「全疾患・全病名の診療数における2011年度、2012年度の過剰相対倍率評価」によると「原発事故直後に白内障、早産などは高倍率で増加していた」

2008年から2017年の福島県における「院内ガン登録・甲状腺がんのトレンド解析」

- ①原発事故原因で2017年までに増加した甲状腺がん登録者の合計人数→349人
- ②原発事故発症ガン寄与率のトレンドは多項式関数（ピーク型）であり2012年には11.5%、2015年は33.7%でピークになり、それ以後は微減傾向で2017年には25.5%にまで減少したが、ゼロにはならず微減傾向は今後も持続すると推定される。

福島県における甲状腺がんのトレンド解析

経過年	調査年	甲状腺（事故無し）トレンド	甲状腺（事故有り）トレンド	ガン過剰数	原発事故発症ガン寄与率（%）
	12008年	122	122		
	22009年	151	151		
	32010年	153	153		
	42011年	161	151		0.0
	52012年	167	189	22	11.5
	62013年	172	244	72	29.5
	72014年	176	242	66	27.2
	82015年	180	271	91	33.7
	92016年	183	218	35	16.1
	102017年	186	249	63	25.4
	合計(2011年～2017年)	1225	1564	349	22.3



①松本徳子さんの原発事故直後の行動記録

②松本徳子さんの被ばくしたプルーム別ピーク時の放射能濃度(Bq/m³)と安定テルルの質量濃度(g/m³)

2011年3月15日から31日の申立人・松本徳子の行動記録

・ 2011年3月15日時点の居住場所：福島県郡山市菜根4丁目



2011年3月の日にちと曜日	行動記録	被ばくした可能性があるプルーム番号
15日(火曜)	余震が続く中で自宅待機	P 3
16日(水曜)	同上	
17日(木曜)	近くのガソリンスタンドに車の給油、灯油の確保のため7時ころから1時か程度並ぶ	
18日(金曜)	9時から15時まで幼児のため須賀川市へ移動	
19日(土曜)	同上	
20日(日曜)	余震が続くので自宅待機	P 8
21日(月曜)	不明(自宅待機?)	
22日(火曜)	余震が続くので自宅待機	
23日(水曜)	次女の卒業式中止のため自宅待機	
24日(木曜)	次女を連れて一時、妹の住む東京へ娘を避難させるため13時30分に郡山駅発東京行き高速バスに乗る	
25日(金曜)	勤務先へ戻るため11時に東京駅八重洲から郡山行高速バスに乗り移動	
26日(土曜)	勤務先・福島県の百貨店に自宅から徒歩10分のバス停から高速バスで勤務が始まる	
27日(日曜)	同上	
28日(月曜)	同上	
29日(火曜)	同上	
30日(水曜)	同上(5人がひびくはくし)	
31日(木曜)	次女の小学校卒業式のため9時~10時は近くの小学校へ	P 20

2 プルーム2 (P2)~プルーム9 (P9) には以下に示すAタイプCeボール(直径は1~2μm)を形成していた。



山田國廣著「テルル読本No16: 申請人5人がひびくした9本のプルーム番号を特定しプルーム中微粒子に含まれていた放射性テルル、ヨウ素、セシウムの放射能濃度と安定テルルの質量濃度を算定する」

申立人：郡山市菜根・松本徳子さんの被ばくプルームとプルーム中の放射性核種別濃度 (Bq/m³) と安定テルル (Te-128, Te-130) の質量濃度 (g/m³) の算定表

算定用データ出典 1 : プルーム別のCs-137濃度はSPM(微粒子)捕集用紙に付着した放射性核種データから引用
 算定用データ出典 2 : プルーム別のCs-137比はCTBT高崎観測所の実測値より引用
 算定用データ出典 3 : Te-128, Te-130とCs-137の質量比はJAEAのData/Code2012-018「福島第一原子力発電所の燃料組成解析」より引用

県名	測定場所	プルーム番号	Te-129	Te-129m	Te-131m	Te-132	I-131	I-132	I-133	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Te-128	Te-130	
群馬県	CTBT高崎観測局 Cs-137比	3月12日~13日P1	0.53	1.47	1.2	10.9	3.74	7.31	8.9	0.86	0.22	1			
	CTBT高崎観測局 Cs-137比	3月15日P3	0.38	4	0.5	4.8	2.6	1.98	1.8	1.23	0.15	1	Cs-137質量比	Cs-137質量比	
	CTBT高崎観測局 Cs-137比	3月18日P5	0.52	0.95	0	3.46	3.6	2.05	0.86	0.16	1	0.078	0.305		
	CTBT高崎観測局 Cs-137比	3月20日P8	0.31	5.29	0	1.2	1.37	0.61	0	0.86	0.14	1			
大気汚染濃度 (Bq/m ³)													質量濃度 (g/m ³)		
県名	SPM測定局	測定場所	被ばくプルーム番号	Te-129	Te-129m	Te-131m	Te-132	I-131	I-132	I-133	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Te-128	Te-130
福島県	台新局	郡山市台新	3月15日15時のP3	13	137	17	165	89	68	62	42	5	34.3	8.29E-13	3.24E-12
	台新局	郡山市台新	3月20日23時のP8	26	449	0.0	102	116	52	0	73	12	84.9	2.05E-12	8.03E-12

③松本徳子さんの急性原爆症と慢性原爆症の症状

④松本徳子さんと同種被害発症事例

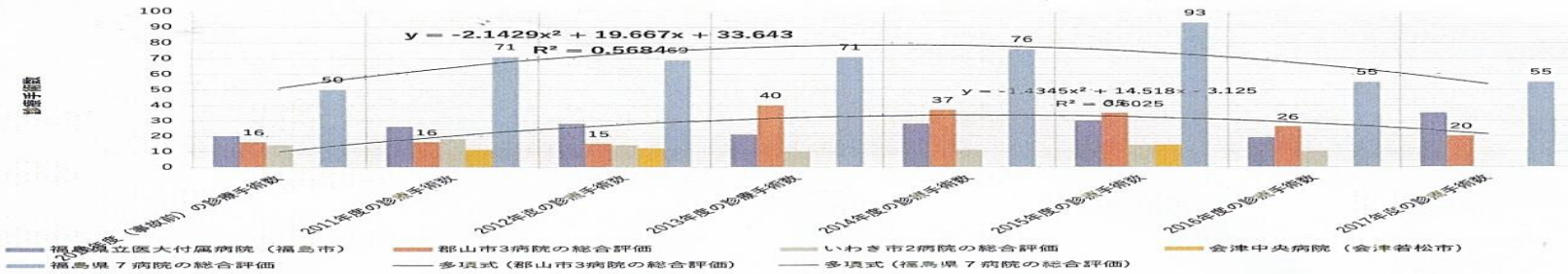
申請人・松本徳子さんの急性原爆症状と慢性原爆症状

- ①申請人の氏名と性別：松本徳子さん、女性
- ②被ばく時の住所：福島県郡山市菜根4丁目
- ③現在の住所：福島県郡山市菜根4丁目
- ④申請人の活動歴：避難共同センター代表世話人

急性原爆症の分類	健康被害症状及び病名	左記症状の原発事故原因発症事例
急性原爆症状	<p>①2011年4月11日に娘の中学校入学式があるので、4月9日に娘を郡山に戻しました。戻したことを今は悔やんでいます。同僚から、子どもが鼻血を出すようになったと聞き心配です。福島市在住で、七歳と四歳の兄弟が共に毎日出血するので、受診したら「のぼせ」と言われたが、心配だと。</p> <p>②6月23日、娘が登校前、大量の鼻血が吹き出すように出ました。ドロドロしたレバー色で、量が多く、仰向いていれば止まるというようなものではありません。その後、学校から鼻血が出たと連絡が来るようになり、多重で制服に広がるほどでした。娘が郡山市に戻ってから3ヶ月経った頃、最も大きな鼻血が起こり、また寝起きに数回あり、娘は下痢や吐き気で学校を早退することが多くなりました。</p> <p>③私が喉のかすれや痛みなど違和感を感じ始めたのは、避難して郡山市と行き来するようになってからです。福島市に住んでいた長女も、声がかすれて出なくなっていました。それは避難者の共通体験と言えます。避難した人達から同じことを聞きました。あるお母さんは「子どもが保健先から戻ってくると、体調に異変が起こる」と言いました。私も夫と会うなどで郡山市に戻ると、必ず喉に違和感を感じるので。</p>	<p>Our Planet-TVが福島原発事故後に関東全域で行った健康被害調査結果による「①喉の不調172件②鼻血106件③下痢97件④倦怠感83件⑤嘔吐61件⑥鼻の痛み・鼻水⑦頭痛42件⑧眼の腫れ39件⑨口内炎28件」であり、左記の松本さん及び家族の急性原爆症と類似であった。</p>
慢性原爆症状	<p>①わが家では、2016年に家族3人の尿2リットルを検査したら、全員セシウム137が検出されました。郡山市で生活し続けている夫の量は、娘と私より多かったです。</p> <p>②川崎市に避難してからも健康状態は悪く、2013年9月頃から膝関節が痛み、夜中に熱が出るようになり、膝の痛みで椅子から立ち上がるのに時間がかかります。十日くらい経つと紅い斑点が出て来ました。病院勤務だったので医師から専門医を紹介され、膠原病の中のライター症候群と診断されました。ライター症候群の原因はサルモネラ菌、溶連菌、血液感染がきっかけで発症すると専門医から説明されましたが、どれも特定されず、どのように感染したのかわかりません。治療薬のステロイド剤は副作用があるので、強い薬から弱いのにまた強いのに、膝関節が痛くなる繰り返しが続きました。</p> <p>③風呂に入っただけで、立ってられないほどの貧血症がありました。手のこぼりもありました。セカンド・オピニオンとして、他の病院で甲状腺ホルモンの血液検査をしたところ橋本病も患っていました。</p> <p>④2016年から娘と私は、自主的に甲状腺エコー診断（超音波診断）を受けています。娘の最初の検査結果は、3ミリ程度の結核があり、A2判定でした。「子どもにしては大きいですが、ようすをみよう」と言うことでした。私は、右の甲状腺に10ミリ、左の甲状腺に5ミリの結核があり、今は良性です。悪性になるか調べる必要があるのですが、毎年検査しています。自主的に検査をしないと、被ばくの影響があるかどうかかわからないです。</p>	<p>①福島県におけるDPC登録24病院の「全疾患 - 全病名の診療数における2011年度、2012年度の過剰相対倍率評価」によると、「膠原病の全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患(1.5倍) 膝関節炎(変形性を含む)(3.9倍)」と原発事故後に高倍率で増加していた。</p> <p>②福島県7病院（福島市1病院、郡山市3病院、いわき市2病院、会津若松市1病院）における2010年度から2017年度の「DPC登録の甲状腺良性結核の増加傾向」が明確であった。</p>

福島県7病院（福島市1病院、郡山市3病院、いわき市2病院、会津若松市1病院）における2010年度から2017年度の「DPC登録の甲状腺良性結核の増加傾向」

注1：福島市、郡山市、いわき市、会津若松市という福島県を代表する4地域都市において、原発事故後に甲状腺良性結核が増加していた。福島市、郡山市、福島県7病院合計病院では過剰相対倍率が1.5倍以上の**重大影響有**であった。いわき市では過剰相対倍率が1.3~1.49の影響有、会津若松市では事故前は未診療0~9であったが、事故後には最大14の診療手術数になり**重大影響可能性有**という評価である。

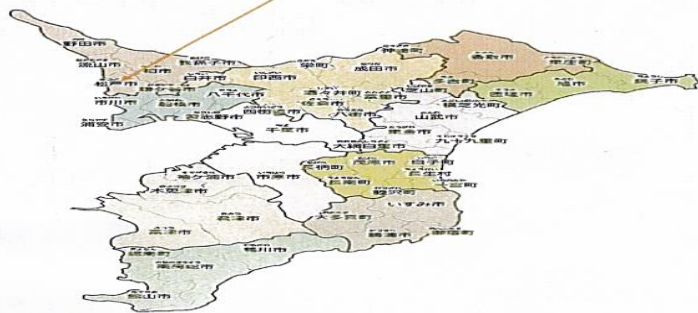


①小笠原和彦さんの原発事故直後の行動記録

②小笠原和彦さんの被ばくしたプルーム別ピーク時の放射能濃度(Bq/m³)と安定テルルの質量濃度(g/m³)

申請人・小笠原和彦さんの急性原爆症状と慢性原爆症状

- ①申請人の性別と氏名：小笠原和彦、男性
- ②被ばく時の住所：千葉県松戸市
- ③現在の住所：千葉県松戸市
- ④申請人の活動歴：原発事故の松戸市などにおいて放射線測定活動を開始、その後は飯館村の被ばく影響調査、そして2020年7月に「東電被爆 2020・黙示録（風媒社）」出版



急性、慢性の分類	健康被害症状及び病名	左記症状の証拠文献および資料
急性原爆症状	<ul style="list-style-type: none"> ①福島原発事故発生当時、住んでいる松戸市周辺が放射能で汚染されていることは知っていた。隣の家で、表土をとって除染したくらいはあった。 ②原発事故後、福島に取材に行くようになってからも、鼻血がでたとかの異常はなかった。 ③浪江町など帰還しな区域に入る時に防護服を渡されたが着なかった。高汚染地域でもマスクもせずに車で行って、除染もせずにそのまま帰ってきた。 	
慢性原爆症状	<ul style="list-style-type: none"> ①働いていた職場で定期的に血液検査したところ、2024年3月頃には高血圧で260もあり、糖尿病もみつかった。 ②2022年7月20日、77歳の誕生日だったのでその日のことはよく覚えている。体調がおかしいと気づいたのは今日にわき腹が痛くなったことで、地域の病院に行き、血液検査をしたら都のデモない数値が出た。千葉西総合病院への紹介状を書いてもらって行くと、そのまま入院となった。 ③外来で受診したから医師は、データから多発性骨髄腫と診断し内科医を紹介された。 ④退院で治療を続けている。色々な副作用が出てくる。今出ているのは、食欲不振や熱に眠くなる。一番つらいのが便秘で5日間くらい全然でないこともある。 ⑤今でも脳腹の中にゴリゴリしたものがあるような感じで少し痛みがある。この病気の特徴は腸以外のあらゆる臓器、腎臓などにたまりやすく骨が付着して発症する。骨に影響して骨折しやすくなる。 	

プルーム2 (P2)～プルーム9 (P9) には以下に示すAタイプCsポール（直径は1-2μm）を形成していた。



申請人：千葉県松戸市・小笠原和彦さんの被ばくプルーム番号とプルーム中の放射性核種別濃度 (Bq/m³) と安定テルル (Te-128, Te-130) の質量濃度 (g/m³) の算定表

算定用データ出典 1：プルーム別のCs-137濃度はSPM(微小粒子)捕集用ろ紙に付着した放射性核種データから引用
 算定用データ出典 2：プルーム別のCs-137比はCTBT高崎観測所の実測値より引用
 算定用データ出典 3：Te-128, Te-130とCs-137の質量比はIAEAのData/Code2012-018「福島第一原子力発電所の燃料組成解析」より引用

県名	測定場所	プルーム番号	Te-129	Te-129m	Te-131m	Te-132	I-131	I-132	I-133	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Te-128	Te-130	
群馬県	CTBT高崎観測局 Cs-137比	3月12日～13日P1	0.53	1.47	1.2	10.9	3.74	7.31	8.9	0.86	0.22	1			
	CTBT高崎観測局 Cs-137比	3月15日P2	0.38	4	0.5	4.8	2.6	1.98	1.8	1.23	0.15	1	Cs-137	Cs-137	
	CTBT高崎観測局 Cs-137比	3月18日P5	0.52	0.95	0	3.46	3.6	2.05	0.86	0.16	1	0.078	0.305		
	CTBT高崎観測局 Cs-137比	3月21日P9	0.31	5.29	0	1.2	1.37	0.61	0	0.86	0.14	1			
プルーム中の大気汚染濃度 (Bq/m ³)													質量濃度 (g/m ³)		
県名	SPM測定局	測定場所	被ばくプルーム番号	Te-129	Te-129m	Te-131m	Te-132	I-131	I-132	I-133	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Te-128	Te-130
千葉県	柏大室	柏市大室	3月15日10時のP2	29	300	38	360	195	149	135	92	11	75.0	1.81E-12	7.09E-12
		柏市大室	3月21日9時のP9	2	32	0	7	8	4	0	5	1	6	1.45E-13	5.67E-13

③小笠原和彦さんの急性原爆症と慢性原爆症の症状

④小笠原和彦さんと同種被害発症事例

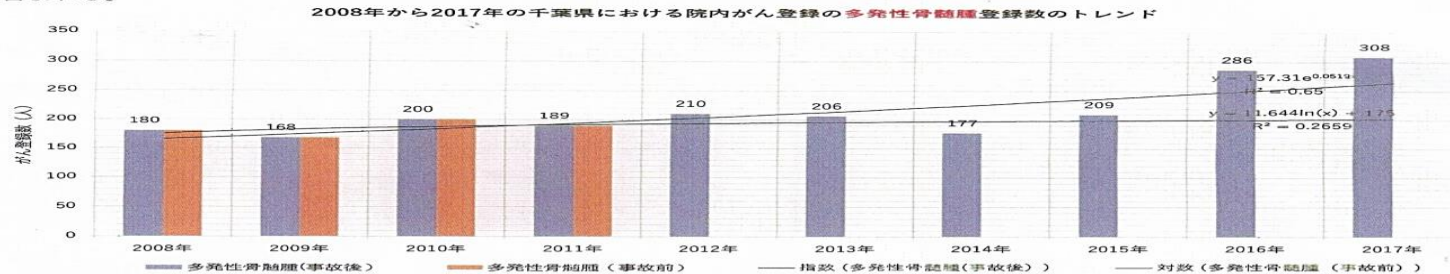
申請人・小笠原和彦さんの急性原爆症状と慢性原爆症状

- ①申立人の性別と氏名：小笠原和彦、男性
- ②被ばく時の住所：千葉県松戸市
- ③現在の住所：千葉県松戸市
- ④申立人の活動歴：原発事故の松戸市などにおいて放射線測定活動を開始、その後は飯館村の被ばく影響調査、そして2020年7月に「東電被爆 2020・黙示録（風媒社）」出版

急性、慢性の分類	健康被害症状及び病名	左記症状の原発事故原因発症事例
急性原爆症状	<ul style="list-style-type: none"> ①福島原発事故発生当時、住んでいる松戸市周辺が放射能で汚染されていることは知っていた。隣の家で、表土をとって除染したくらいだった。 ②原発事故後、福島に取材に行くようになってからも、鼻血がでたとかの異常はなかった。 ③浪江町など帰還こんな区域に入る時に防護服を渡されたが着なかった。高汚染地域でもマスクもせずに車で行って、除染もせずにそのまま帰ってきた。 ④2011年から2013年までは、急性原爆症発症は確認されていない。 	<p>①大阪大学村上道雄教授らの論文によると「福島県浜通りと仲通りでは原発事故後に高血圧や糖尿病の有病率が事故前に比較して有意に増加していた」。</p> <p>②2008年から2017年の千葉県の院内がん登録トレンド解析結果からは「多発性骨髄腫の登録数が福島第一原発事故影響により指数関数的に増加し、2013年以後も増え続ける傾向があった」。</p>
慢性原爆症状	<ul style="list-style-type: none"> ①働いていた職場で定期的に血液検査したところ、2024年3月頃には高血圧で260もあり、糖尿病もみつかった。」 ②2022年7月20日、77歳の誕生日だったのでその日はよく覚えている。体調がおかしいと気づいたのは今日にわき腹が痛くなったことで、地域の病院に行き、血液検査をしたら都のデモない数値が出た。千葉西総合病院への紹介状を書いて行くと、そのまま入院となった。 ③外来で受診したから医師は、データから多発性骨髄腫と診断し内科医を紹介された。 ④通院で治療を続けている。色々な副作用が出てくる。今出ているのは、食欲不振や急に眠くなる。一番つらいのが便秘で5日間くらい全然でないこともある。 ⑤今でも脳腹の中にゴリゴリしたものがあるような感じで少し痛みがある。この病気の特徴は腸以外のあらゆる臓器、腎臓などにたんばく質が付着して発症する。骨に影響して骨折しやすくなる。 	

千葉県における2008年から2017年の「院内がん登録、多発性骨髄腫のトレンド解析による原発事故要因増加結果」

- ①事故前のトレンドはおおむね直線で近似できる。（原発事故影響がない場合の予測値）。
- ②事故後の登録数トレンドは指数関数で近似できる。指数関数は増加率が増え続ける特徴がある。
- ③ある年の「指数関数値（実測では青い棒グラフ） - 直線値」は、福島第一原発事故影響により増加したがん登録数と考えられる。
- ④登録数増加分には、千葉県で被ばくして発症した人の登録数と、千葉県外の原発周辺都市で被ばくしてその後千葉県神奈川県内病院でがん登録した人も含まれる。

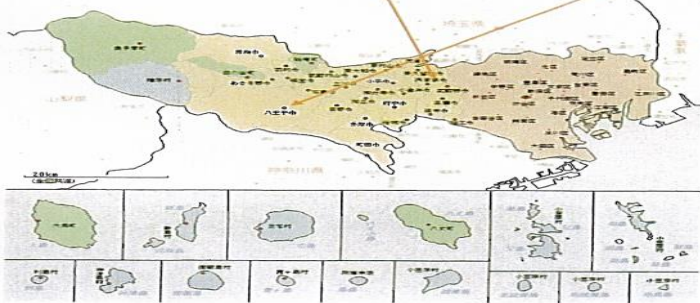


①山田真さんの原発事故直後の行動記録

②山田真さんの被ばくしたプルーム別ピーク時の放射能濃度(Bq/m³)と安定テルルの質量濃度(g/m³)

申請人・山田真さんの急性原爆症状と慢性原爆症状

- ①申立人の性別と氏名：山田真、男性
- ②被ばく時の住所：東京都西東京市南町5-17-2
- ③現在の住所：同上
- ④申立人の活動歴：小児科医として東京都八王子中央診療所に勤務、その後は同診療所理事長。
2014年10月に著書「水俣から福島へ（岩波書店）」を出版。



急性、慢性の分類	健康被害症状及び病名	左記症状の経過文献および資料
急性原爆症状	①2011年5月に、福島市での健康相談を依頼され、同年6月に医師として診療相談に赴き、以後2019年まで福島市、郡山市、喜多方市などで、1年に10回ほどのペースで健康相談活動をおこなってきた。	
慢性原爆症状	①2011年6月より、福島を度々訪れることになった。 ②2012年5月ごろ、突然に頻尿、口の渇き、目のカサミ、疲労感などが起こり、検査の結果、糖尿病を発生していることが判明した。 ③グリコヘモグロビンの値は10.5と高く、症状があるためインシュリンによる治療を開始して現在にいたっている。 ④II型糖尿病は遺伝性であることが多いが、山田真さんの近親には糖尿病患者は全くおらずに発病の原因が被ばく影響だった可能性は否定できない。	

プルーム2 (P2)～プルーム9 (P9) には以下に示すAタイプCsボール (直径は1-2μm)を形成していた。



山田真著「テルル読本No16:申請人6人がひばくした9本のプルーム番号を特定しプルーム中微粒子に含まれていた放射性テルル、ヨウ素、セシウムの大気汚染濃度と安定テルルの質量濃度を算定する」

申立人：東京都八王子市、西東京市・山田真さんの被ばくプルーム番号とプルーム中の放射性核種別濃度 (Bq/m³) と安定テルル (Te-128, Te-130) の質量濃度 (g/m³) の算定表

算定用データ出典1：プルーム別のCs-137濃度はSPM(微小粒子)捕集用紙に付着した放射性核種データから引用
 算定用データ出典2：プルーム別のCs-137比はCTBT高崎観測所の実測値より
 算定用データ出典3：プルーム別のCs-137比はCTBT高崎観測所の実測値より

県名	測定場所	プルーム番号	Te-129	Te-129m	Te-131m	Te-132	I-131	I-132	I-133	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Te-128	Te-130	
群馬県	CTBT高崎観測局Cs137比	3月12日~13日P1	0.53	1.47	1.2	10.9	3.74	7.31	8.9	0.86	0.22	1			
	CTBT高崎観測局Cs137比	3月15日P2	0.38	4	0.5	4.8	2.6	1.98	1.8	1.23	0.15	1	Cs-137 質量比	Cs-137 質量比	
	CTBT高崎観測局Cs137比	3月18日P5	0.52	0.95	0	3.46	3.6	2.05	0.86	0.16	1	0.078	0.305		
	CTBT高崎観測局Cs137比	3月21日P9	0.31	5.29	0	1.2	1.37	0.61	0	0.86	0.14	1			
プルーム中の大気汚染濃度 (Bq/m ³)															
県名	SPM測定局	測定場所	被ばくプルーム番号	Te-129	Te-129m	Te-131m	Te-132	I-131	I-132	I-133	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Te-128	Te-130
東京都	八王子市川口	八王子市川口町	3月15日10時のP2	29	300	38	360	195	149	135	92	11	75.0	1.81E-12	7.09E-12
		八王子市川口町	3月21日9時のP9	2	32	0	7	8	4	0	5	1	6	1.45E-13	5.67E-13

③山田真さんの急性原爆症と慢性原爆症の症状
 ④山田真さんと同種被害発症事例

申請人・山田真さんの急性原爆症状と慢性原爆症状

- ①申立人の性別と氏名：山田真、男性
- ②被ばく時の住所：東京都西東京市南町5-17-2
- ③現在の住所：同上
- ④申立人の活動歴：小児科医として東京都八王子中央診療所に勤務、その後は同診療所理事長。
2014年10月に著書「水俣から福島へ（岩波書店）」を出版。

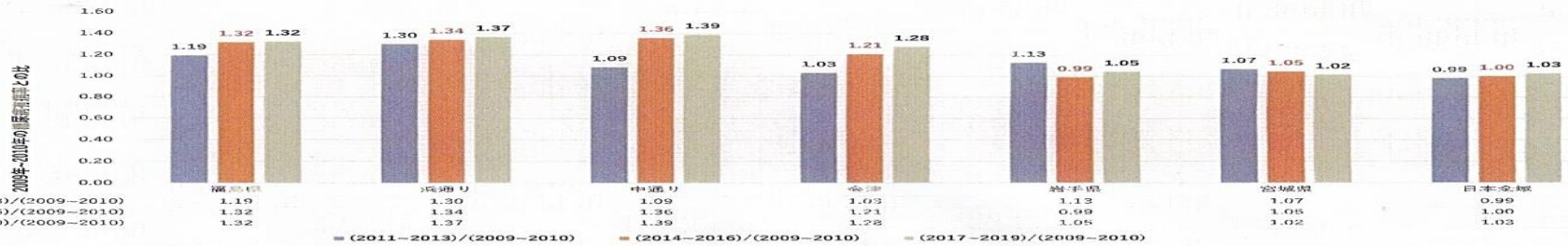
急性、慢性の分類	健康被害症状及び病名	左記症状の原発事故原因発症事例
急性原爆症状	①2011年5月に、福島市での健康相談を依頼され、同年6月に医師として診療相談に赴き、以後2019年まで福島市、郡山市、喜多方市などで、1年に10回ほどのペースで健康相談活動をおこなってきた。2011年中において、明確な急性原爆症状は確認されていない。	①広島原爆における杉原芳夫による慢性原爆症の分類表によると「内分泌障害において、1960年10月から61年の特別被爆者293人中糖尿病56人(19.1%)が認められた」 ②大阪大学村上道雄教授らの論文によると「福島県浜通り、中通りにおいて原発事故後の糖尿病が有意に増加していた」
慢性原爆症状	①2011年6月より、福島を度々訪れることになった。 ②2012年5月ごろ、突然に頻尿、口の渇き、目のカスミ、疲労感などが起こり、検査の結果、糖尿病を発生していることが判明した。 ③グリコヘモグロビンの値は10.5と高く、症状があるためインシュリンによる治療を開始して現在にいたっている。 ④II型糖尿病は遺伝性であることが多いが、山田真さんの近親には糖尿病患者は全くおらずに発病の原因が被ばく影響だった可能性は否定できない。	

2024/2/28

山田真著「申請人6人の原発事故後における被ばく状況と急性原爆症と慢性原爆症発症の原発事故原因発症事例を確認」

大阪大学村上道雄教授らの論文によると「福島県浜通り、中通りにおいて原発事故後の糖尿病が有意に増加していた」
 「福島県、浜通り、中通り、会津、岩手県、宮城県、日本全域における2009年～2010年の糖尿病有病率と比較した2011年～2013年、2014年～2016年、2017年～2019年の有病率の増加傾向」

- 注1：浜通りでは原発事故直後の2011年から1.3倍という高い糖尿病有病率の原発事故影響増加傾向が持続していた。
- 注2：中通りでは原発事故後3年が経過した2014年から1.36倍という高い糖尿病有病率の原発事故影響増加がみられる。
- 注3：会津地域は2014年以後に1.21倍に増加していた。
- 注4：比較対象の日本全域では事故前比率でほぼ1倍と、原発事故影響はみられない。



2024/2/28

山田真著「申請人6人の原発事故後における被ばく状況と急性原爆症と慢性原爆症発症の原発事故原因発症事例を確認」